

定例市長記者会見録

日 時：2月19日(金) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、読売新聞、朝日新聞、中部経済新聞

本日の案件は4つです。

1番目は『第66回おりもの感謝祭一宮七夕まつりは、“時間”、“場所”、“人”を分散して「0(ゼロ)密」開催』です。昨年はコロナ禍により開催を中止しましたが、今年はなんとか実施したいということで、関係者と準備を進めています。そのための大きな方針として、時間、場所、人を分散し、「0(ゼロ)密」を目指すものです。これまでは木曜日から日曜日までの4日間で実施していましたが、今年は1カ月に分散します。その間は飾り付けを行い、来場者の方に七夕の雰囲気を感じていただきたいと思います。イベントについては、まだこの時期にコロナ禍の継続が予想されますので、歩行者天国や露店の出店、パレード等については中止します。できるだけ室内でイベントを実施し、盆踊りについてもオンラインや、来場者数を管理できる方法で開催を検討しています。ステージイベントについては、シビックテラスなどの屋外に椅子を並べて、入場者数を管理しながらの実施も検討しています。期間を1カ月間とし、密により人出がコントロールできないパレードを中止します。一方で、ディスタンスは確保し、実施可能なイベントは行う準備を進めてまいります。協賛金につきましては、毎年、市の予算に加えて企業様や団体様からも補助していただき、七夕を開催させていただいていますが、令和3年の開催に当たっては、例年のような協賛金の募集は行わず、市の予算をベースとします。この方針は、七夕の企画委員会でも合意を得られています。総会は5月上旬に開催されますので、その時期にはもう少し固まった形でお示しできると思います。

2番目は「一宮市スケート場 令和4年3月末に閉鎖」です。令和3年度は10月より通常どおり運営し、来年3月末で閉鎖します。廃止の理由は、建物の老朽化、設備もこれまで手当てしながら使用してきましたが限界に達していること、また、利用人数についても年を追うごとに減ってきていることが挙げられます。市議会3月定例会に条例案として提出します。

3番目は、令和2年度3月補正予算(案)に計上された主な事業です。

No.1「クラスターが発生した事業者への支援」

令和3年度もクラスターが発生した事業者への支援を、継続して行うために計上します。万が一、発生した場合を想定しています。国からの新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用します。

No. 2 「新生児特別給付金事業」

昨年、1人当たり10万円の特別定額給付金が国から支給されましたが、基準日以降に生まれた新生児が対象にならないため、本市では1人当たり5万円を支給しています。これを令和3年度も継続するために計上します。

No. 3 「特別障害者手当等受給者への支援」

特別障害者手当を受給中の重度の障害者の方が、コロナ禍で生活状況が厳しくなっていますので、1人当たり5,000円を給付するために計上します。

No. 4 「高齢者のワクチン接種に係るタクシー運賃を助成」

医師会と調整しながら市内でのワクチン接種の準備を進めていますが、要介護1以上の方を対象として、ワクチン接種の会場へ行き来するために、タクシーを使用した場合の初乗り運賃を助成します。接種開始は4月からですが、助成券の印刷業務等を実施するため、補正予算で計上します。

No. 5 「感染症患者対応業務のためのシステム整備」

保健所等で使用となるシステムが必要となりますので、1,800万円を計上します。

No. 6 「自宅療養者への支援」

自宅療養者の血液中の酸素濃度を計測するパルスオキシメーターを希望者に貸与するため、170万5,000円を計上します。

No. 7 「経済対策事業」

雇用調整助成金申請支援金につきまして、令和3年度も継続します。コロナ禍でお困りの事業者の方が雇用調整助成金の申請等を社会保険労務士に委託する費用を、市から援助します。新しい生活様式対応事業所設置等整備補助金につきましては、店舗の3密対策として補助で計上していました3密対策リフォーム等補助金を、「新しい生活様式」に沿ったビジネス支援ということで、令和3年度も名称を変えて継続します。一宮市感染防止対策協力支援金につきましては、昼間営業する店舗に支援がないことに対し、市独自で1店舗8万円を支給するものです。

No. 19 「医療過誤に係る損害賠償金」

一宮市立市民病院での医療過誤につき、先方との和解に伴い支払う損害賠償金です。

その他、国の公共事業関係の補正予算で交付金、補助金が増額されたことに伴い、様々な工事で増額補正しています。

4番目は、令和3年度予算の主なものです。

No. 2 「中核市移行事業」

4月1日から中核市に移行しますので、漏れなく準備を進めているところです。

No. 3 「福祉総合相談室開設」

中核市移行事業の目玉となりますが、これまで県が実施していた難病患者の相談や、こころの病気の相談業務が市に移行されますので、福祉総合相談室に集約し、本格的な相談支援の体制をつくります。

No. 4 「保健所関係各種事業」

今年度は市職員を 20 人程度、保健所に派遣し経験を積んで事務を確実に受け継ぎ、保健衛生サービスの質を落とすことがないように準備しています。

No. 5 「公害・産業廃棄物監視指導事業」

これまで、産業廃棄物については県が指導・監視していましたが、中核市移行後は市が窓口となります。また、大気汚染状況の監視については、自動車排出ガスなども測定する局を 1 カ所増設し、汚染の度合いが高そうなエリアについては、しっかり監視します。

No. 6 「市制施行 100 周年記念事業」

市民チャレンジ事業として、市民の皆さんから幅広く「新しいチャレンジ」を募集しています。関係団体実施事業では、商工会や芸術文化協会、スポーツ協会など、市と深い関係にある団体様が実施する事業を応援します。実行委員会の実施事業では、100 周年記念事業に対する寄附を活用しながら様々なイベントを行うため、実行委員会で準備を進めていただいています。

No. 7 「結婚新生活支援事業」

100 周年である令和 3 年度限定の事業です。結婚後、一宮市で生活するご夫婦で条件に該当する方に、1 世帯当たり 20 万円を上限として補助します。財源については、国から事業費の半分が補助されます。

No. 8 「市民活動サポート補助金事業」

これまで実施してきた「市民が選ぶ市民活動支援制度」は投票制でしたが、投票にかかる経費に対して投票率は低調でした。そこで、あらゆる階層の市民活動団体を支援できるよう、また補助も増やせるよう、制度を刷新するものです。

No. 9 「子どもに対する学習・生活支援事業」

子どもの将来の自立を後押しできるよう、市内 3 カ所を拠点とし、学習支援、生活習慣や育成環境の改善、教育と就労に関する支援を行います。

No. 10 「放課後児童クラブ等整備事業」

放課後児童クラブの受け入れでは、残念ながら待機児童が 100 人を超えて発生しています。待機児童が多い駅西エリアの末広小学校敷地内に施設を整備し、また、老朽化した児童館を改修して児童クラブ室を設置します。

No. 11 「テナント型保育所施設整備事業」

民間活力の活用として、競輪場跡地に建設中の「(仮称) ビバモール一宮」内に、乳児を対象とした保育所を設置していただけますので、施設改修に要する経費を補助します。

No. 12 「地域経済活性化事業」

一宮商工会議所が実施する「次世代産業振興支援事業」等と歩調を合わせ、市からも応援するものなどです。

No. 13 「スポーツ施設照明設備 LED 化事業」

設備の LED 化により電気使用量が半分程度となりますので、環境対策として取り組んでまいります。

No. 14 「まちなかウォークブル推進事業」

駅前シンボルロードに人工芝を敷き、遊具を置くといった社会実験を、今年10月頃に行いたいと考えています。

No. 15 「流域貯留施設築造事業」

これまでも小中学校のグラウンドを掘り、そこに雨水を一時的に貯めていましたが、令和3年度からは公園でも行います。国、県からの補助額も増額されます。

No. 16 「災害現場等映像伝送事業」

昨年、「5Gによる消防・救急実証実験」を行いました。消防・救急活動において、これまで音声で行っていたことに換え、映像で伝達することで、より迅速・正確な情報伝達を行います。

No. 17 「GIGA スクール構想整備事業」

小中学校において、児童・生徒にタブレット端末を、1人1台配備します。

No. 18 「(仮称)一宮市第1共同調理場整備事業」

市内浅井町に、PFI手法を用いて建設する共同調理場の予算です。

No. 19 「既存病棟改修事業」

小児科外来診察室、患者サポートセンター等の改修工事を行います。

No. 20 「水道管劣化診断業務」

水道管の劣化診断を、AIを使用して戦略的に行い、維持や管理を効率的・効果的に行います。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答の概要

■第66回おりの感謝祭一宮七夕まつりは、

“時間”、“場所”、“人”を分散して「0(ゼロ)密」開催

(記者) 今年を開催したいとのことですが、七夕まつりは市民にとって大切なものとお考えだからですか？

(市長) そうです。7月までにコロナが終息するかどうかは分かりませんが、大きな前進として4月から高齢者を対象に、コロナワクチンの接種が始まります。7月に行われる七夕まつりは、一宮市民にとって一年間で最大のイベントです。七夕まつりを2年連続で中止することで、七夕まつりの灯を消すことは避けたいという思いです。これは七夕まつりを一緒に行う、経済団体や商店街などの総意でもあります。

■一宮市議会3月定例会

(記者) 新年度予算案について、全体の方針についてお聞かせください？

(市長) コロナ禍で、経済活動だけではなく、人の心も疲弊していると思います。このような状況ですが、前向きに明るい兆しを少しでも感じていただける事業も行ってきたいと考えています。市税収入については、これまで9年連続で増収でしたが、

今年度は約9%の減収を見込んでおり非常に厳しい状況です。しかし、国からの交付金や支援制度を使い、大きな支障を生じない予算編成となりました。

(記者)「明るい兆し」を感じてもらえる事業とは、具体的にどういった事業ですか？

(市長) 市民の皆さまが安心して健康で暮らせる、安全安心が基本です。県から移譲される業務には、健康をお支えする保健所や福祉事業があります。ここで市民の皆さまに中核市となって、例えばコロナ感染情報を定時に情報発表することなども、市民の皆さまにとって安心の第一歩につながると思います。

(記者) コロナ禍で税収が落ち込み財政調整基金についても、令和2年度末34.6億円が7.7億円に減少する見込みです。中核市となる年に、非常に厳しい財政運営を強いられることについて、どうお考えですか？

(市長) 財政調整基金は、非常事態や緊急事態に備えるために積み立てていました。コロナはやむを得ない災害だと考えて、財政調整基金から差額の繰り出しさせていただいています。しかし今後、さらに災害があった時のために備え、7億円は残しています。

(記者) 今年は中核市となり100周年を向かえる大切な年です。この年をどのように運営していくか、考えをお聞かせください？

(市長) 行政の仕事は、人の命に係わる医療や保険福祉に係わる分野など、失敗やミスが許されない厳しい面に立たされています。市民の皆さまに一番身近な自治体である市がやることでどうやって付加価値を付けていくか、継続性、安定性、確実性を大切にしながら、徐々に改善、改良を積み重ねていきたいと考えています。月日がたつて、半年、一年後に市民の皆さまに、利便性が良くなった、仕事が早くなったなどとお褒め頂ければ、中核市になって良かったと実感できると思います。

(記者) 保健所について、県から市に引き継ぐことで何か独自性は出されるのですか？

(市長) 保健所の行う業務には、様々な法律の枠組みがありますので、すぐに独自性を出すのは難しい面もあります。

(記者) 中核市になることで、市にデメリットはあるのでしょうか？

(市長) 中核市になった後、保健所関係の経常経費は、地方交付税として市に交付されます。しかし、保健所の建物を県から無償で借りられるのは4年間です。その後、保健所の建設にかかる経費については、国からの補助はありませんので、考えていく必要があります。